

発展期



「発展期」をレポートした人
第1期としよ係 東善仁さん・東恭子さん

「としよかん」を自分の居場所と思ってくれる人が増え、今度はどうやっていくか?と一緒に考えていきました。としよ係と同じ目線で運営を手伝ってくれる方も現れ、としよ係はその仲介役になっていきました。

仲間が増えた！
ボランティア募集



自分たちで決めて、使おう！
子ども会議



夏休みを過ぎると子どもたちにとって「としよかん」は放課後の居場所として日常のものになりました。ただ、そうなると緩みが出てくるものです。騒いだり暴れたりすることもあります。そのとき、叱るのではなく、子どもも住人のひとりとして認め、子どもたち自身で部屋の約束事や使い方を決めてみようと呼びかけました。すると！前よりも活き活きとして自主的にいろんなことが決まり、最後には本棚のレイアウト替えと、整理が始まりました。約束事は紙に書いて貼りだし、高学年が低学年に教えました。



地域情報誌から取材があり、ボランティア募集の情報を載せたところ、定期的に手伝ってくれる方が増えました。毎月のとしよだよりの投函を分担したり、イベントの準備をお願いしたりすることも助かりましたが、何より、子どもを連れてとしよかに居てくれること自体が他の子どもの見守りになり、安心感が生まれました。住んでいる地域にこうした場所がない方は、自転車で手伝いに通ってくれています。「家に引きこもりがちになるので関わることが嬉しい」とのこと。意外な気づきでした。また、月1日だけトイレ掃除に来てくれる方や、イベントのときに電話をかけて人を集めてくれる方など色々な関わりの幅が生まれていきました。

応援隊の声

赤ちゃんからお年寄りまで、いろいろな世代が交流できる場所。茶山台以外の方もウェルカムなところが好きです。



三原台在住
高尾 明絵さん

広報誌『泉北コミュニティ』をきっかけにとしよかんボランティアに。お子さんと一緒に通ってくれています。

住人さんの声

はじめは「としよかんなのに遊べるの?!」とびっくり。茶山台としよかに来たら、いつも誰かがいるので一緒に遊べます♪



茶山台在住
小学生の子どもたち

イベント時など何事も率先して動く、頼れる小学生たち。

応援隊の声

ももとは一番利用されていない集会所だったのに、こんなに賑やかな場所になって嬉しいです！人が人を呼び、どんどん楽しくなってきたと感じます。



大阪府住宅供給公社
田中 陽三さん

団地再生に向けて茶山台を駆け巡る公社職員さん。

発展期

「としょかん」を自分の居場所と思ってくれる人が増え、今度はどのように使っていくか?を一緒に考えていきました。
としょ係と同じ目線で運営を手伝ってくれる方も現れ、としょ係はその仲介役になっていきました。

1周年!
ご近所フェスティバル



「としょかん」が開館して1周年の機会に、住人さんと一緒にお祭りを開催!料理が得意な住人さんはお手製のちらし寿司やお菓子を準備、子どもたちは「こども会議」で出てきたやりたいことリストの中からファッションショーとダンスを披露。また、ギターが得意なお父さんとピアノを習っている娘さんの演奏など、2日間の賑やかなフェスティバルになりました。

子どもが書いたイラストを使って、金券つきのチラシで告知したところ、これまで活動していることは知っていたけれど「としょかん」に来るチャンスがなかった方もたくさん顔をだしていただき、参加しながら手伝う様子がうかがえ、初めて住人さんが運営の主体になっていきました。

得意ごとを活かす
茶山台だいがく



住人さんの得意ごとをもっと活かしてみたいと思っていた矢先に、1本の電話をいただきました。「梅と健康」について詳しいから、としょかんで場をつくって話せないか?という相談でした。これをきっかけに「茶山台だいがく」がスタート。

「書き初め」「中国文化講座」「無農薬のお味噌づくり」「家計簿講座」など住人さんが「ご近所せんせい」になった講座が開かれました。お味噌づくりでは毎年仕込んでいるという山田夫妻の手ほどきのもと、子どもたちが頑張りました。樽いっぱい大量の大豆にびっくり。



住人さんの声

茶山台としょかんに集まる人は、“人や地域のために動く人”が多いのが素敵です。



大工
山田 晋也 さん

屋上の修理をきっかけにとしょかんに関わる。食に関心が高く、毎年自家製味噌を作っている。

最初は何が始まるのかな?と心配していましたが、コツコツと色々なことを考え、実行されているのに感心していました。

住人さんの声



新倉 笑子 さん

自宅で淹れたコーヒーをご友人にふるまい、「としよかふえ」(としょかんでお茶すること)を楽しむ。

住人さんの声

子どもさんや若い方の考え方が分かり、生身の姿が見られることが茶山台としょかんの魅力だと思います。



永島 勲 さん

?マークの帽子を被り、子どもたちから「ハテナおじさん」と呼ばれる。多世代の交流を楽しんでいる。

引き継ぎ期



「引き継ぎ期」をレポートした人

第2期としよ係 湯川まゆみさん・白石千帆さん

第1期の集大成、そして第2期の始まりの引き継ぎ期。裏では第2期の提案書の作成や打ち合わせ、事務的な引き継ぎなどが行われていました。

えらい豪華な
引き継ぎ式



地域の人々とつづいた
団地deウェディング



第1期としよ係、東夫妻の結婚パーティーを団地でやってみよう!そんな超むちゃぶりなアイデアから始まった企画です。自治会や住人さんにご説明の手紙を渡して開催許可を頂き、見慣れた団地の大階段に虹色のカーペットを敷いて300個の風船を飾れば、あら不思議!茶山台団地がウェディング会場に早変わり。参加者はなんと約150名!自治会や地域から借りたテントをみんなで設営し、子どもたちは歌やダンスで祝福しました。団地の新しい使い方を示せたと同時に、地域の人、団地の人、ゲストの人が混ざり合って一つの場所に関わっている、そんな“開かれた”場づくりの実践にもなりました。終わってみると、「もしかして、私たち結構すごいことやれちゃったかも?!」と、しばらく大興奮&燃え尽き症候群。



大イベント、としよ係の引き継ぎ式が団地deウェディング同日に開催されました。もっとしっぽり引き継ぐ予定が、盛大な場所で行われ、1期で培った茶山台としよかんのコミュニティの深さに驚きました。こんなに華やかに引き継いでいただいて大丈夫かなと思いましたが、周りの皆さんは温かく、とても嬉しいお披露目の機会をいただくこととなりました。

ただ、目の前の華やかさに気を取られ、内心大後悔したことも…。たとえば、自分たちが2期目で作り上げたいコミュニティについてしっかり引き継ぎ式で発表すればよかった、ご挨拶がわりのとしよだより特別号を配布できればよかった、などなど。準備は本当に大事ですね。

住人さんの声

第一印象は「圧倒的に怪しい!!(東さんが…笑)」。茶山台としよかんの、老若男女が入り混じっているところが好きです。



としよかんボランティア
山田 聡子さん

ライター経験があり、子育てをしつつ体に優しい食を極める。団地deウェディングの台本も執筆。

「この人(東さん)、若いのかしら?」と気になって早数年。子どもたちから若いママさん、ご年配の方までお話しできるのが幸せです。



村瀬 貞子さん

洋裁が得意。住人さんから服の困りごとを相談される、頼れる存在。

応援隊の声

絵本に見入る子どもたちの表情を見るのが大好き!団地外から来てもこころよく迎えてくださり、オトナカイギにも参加するようになりました。



高木 久子さん

茶山台団地に住むお友達に誘われ、月1回の絵本よみきかせ会に参加。としよかんで人形劇を開催したことも。

茶山台としょかんepisode 10

コミュニティ 形成期



「コミュニティ形成期」をレポートした人
第2期としよ係 湯川まゆみさん・白石千帆さん



いよいよバトンが渡され、第2期がスタート。最初は新たな体制で住人さんに受け入れてもらえるかな、と不安でいっぱいでした。チーム戦で乗り越えていこう!と言っていました。

住人以外の方も参加!
虹染めと香りの絵本づくりワークショップ



さらに多様な人が集える場づくりに向けて、まずは運営側に多様な人たちが関わられるよう、有償ボランティア、無償ボランティア制度(※)を作りました。両方とも共通しているのは、運営に参加し、来館した人たちと会話を楽しみながら、子どもたちと一緒に見守ること。運営の層を増やすことが継続の鍵ではないかと考え、色々なモチベーションの人が参加しやすいよう心がけています。

としよ係、ボランティアが一緒に行う月1回の会議も始まりましたが、会議といっても脱線もしばしば。としよかんに限らず、「茶山台でこんなことがあったらいいな」がたくさん生まれる場になっています。

茶山台団地外の方も茶山台としよかんという場に興味を持ってくださり、夏休みを利用して「虹染めと香りの絵本づくりワークショップ」を開催。団地外からの関心も高く、外に開かれた場としては嬉しいことでした。参加者同士が染め物を褒め合い、レモンの香りが漂う小さい絵本を親子で作り、それぞれの楽しい時間が流れました。ただ、有料のワークショップは、どうしても参加のハードルが上がるのが課題となりました。絶対かかる経費と値段設定のため、また、集会所という日常的な場所での開催など、様々な折り合いの必要性を感じました。

多様な場づくりに向けて
ボランティア会議



- ※ ① 有償ボランティア・・・約束した日時に必ず来てもらいます。
- ② 無償ボランティア・・・いつ来てもOKです。としよだより編集など、自分の「得意なこと」を活かした活動形態も。

応援隊の声

としよかんの魅力は、今まで接点のなかった年代の大人や子どもたちが集まって新たな繋がりをつくりだしているところ!



としよかんボランティア
廣出 純子 さん

市民活動をアクティブに楽しむ茶山台在住ボランティアスタッフ。

住人さんの声



としよかんボランティア
吉田 あや さん

第1期ニコイチ住人。団地deウェディングでは新郎新婦の入場曲を生演奏!

応援隊の声

としよかんに来るとなんだか懐かしくて、ほっこり落ち着きます。ここに集まるあたたかい人たちの思いとpowerがステキ。



草木染作家
山里 歩美 さん

お隣の和泉市在住。イベント有無し関係なく足を運んでくれる“茶山台LOVER”。

コミュニティ 形成期

としょかん周りの新しいコミュニティ
 泉北レモンの街ストーリー@公社茶山台団地



「泉北ニュータウンまちはらき50周年事業」の一環で始まった地域活動と公社茶山台団地がコラボ。秋に10本のレモンの苗木がとしょかん近くに植樹され、冬にはレモンの木の冬支度ワークショップを開催しました。たくさんの方にご参加いただき、イベントは大成功!これからも、茶山台の住人さんで育てていこうという気運も高まりました。「としょかんに来る」以外の参加の輪、コミュニティの輪が重なり始めています。



植樹などのイベント開催中は、としょかんは参加者の休憩場所になりました。としょ係も抜け出し、一緒に取り組みに参加する一面も。多様な参加の場が茶山台に生まれ始め、選択肢の幅が広がりました。



地域のお祭りに出張!
 CHAYA FESに出店

近隣センターで開催された「CHAYA FES」にとしょかんとして出店。出張0円マーケットと小学生が一生懸命製作した『ザ・chayama』(一冊50円)の販売を行いました。0円マーケットは品物が半分以上が持ち帰られ、地域に貰い手がみつかってありがたかったです。『ザ・chayama』は55冊を売り上げました!



週に一度の移動販売
 ちややマルシェ

第1期の時から続く、えびすの青果さんの野菜販売。お客さんもすっかり定着しました。同時刻に開催している0円マーケットも相乗効果で賑わうように。朝一の準備を子どもたちが手伝ったり、買い物に来た人たちとお話したりと、いろいろな世代が集う憩いの場所になっています。

応援隊の声

としょかんは、茶山台という地域にいくつかある子どもの居場所のひとつ。これから一緒に茶山台を盛り上げていきたい!



めりいさん

団地すぐ近くの子どもの遊び場「ちょっとパン」のお兄さん。茶山台夏祭りの司会といえばこの人!

ゆる〜く繋がり、家の中にあるように好きなことができる雰囲気があります。出入り自由な、あるお宅のりびングみたい!

応援隊の声



泉北レモンの街ストーリー代表
 荻谷 由佳さん

“泉北レモンの街ストーリー”を公社茶山台団地の敷地で住人さんを巻き込み展開。

初めは集会所の中に子どもも大人もたくさん集まって「何をするんやろ?」と感じていました。いろんな年代の方が楽しそうに集まっているところがいいですね。

応援隊の声



えびすの青果
 戎野 哲也さん

毎週土曜日、雨の日も風の日もとしょかん横でお野菜を販売。今ではおなじみの団地風景に。

茶山台としょかんepisode 12

コミュニティ 形成期

としょかんの通常開館時間は仕事でなかなか顔を出せなかったり、子どもたちが多くて遠慮してしまうという声になっていました。一方、孤食になりがちな高齢の方より、一緒にみんなでご飯を食べる機会が欲しいとお話いただき、皆さんの声を取り入れて始まった「オトナカイギ」。第一回は34名の参加者で大盛り上がりでした。団地外の方も来てくださり、以後毎月一回開催することが決まりました。

月に一度の晩ごはん会
オトナカイギ



住人さんの声を聴く
アンケートの実施

団地住人さんのニーズを把握するため、武庫川女子大学大学院の学生さん・NPO法人SEIN・公社の三者で取り組むアンケートを実施。説明会には茶山台団地ができた当初からの住人さんが参加し、「若い人の意見を聞きたい」と地域活動の歴史を語ってくださいました。歴史を知り、これから作る大事な時間でした。



“茶山台にあつらいいな”を考える
モーソー会議

公社で団地再生に携わる皆さんと茶山台住人たちが、OAKカフェにて一つのテーブルを囲み、空室モーソー会議を開催。団地の空き室の有効活用についての意見交換などを行いました。団地の新たな価値創造に向けた取り組み、また茶山台としょかんの自立運営に向けた試みが始まっています。

茶山台のベテラン住人さんも、引越して来たばかりの住人さんも、茶山台以外にお住まいの方も。

誰もが楽しく参加できるよう、オトナカイギのルールを作りました。

- ① 茶山台に興味がある人なら誰でも大歓迎
- ② 一品持ち寄り
(お惣菜、手作り料理、飲み物でもok)
- ③ 頑張りすぎない(参加できるときに参加する)



住人さんの声

東さんは訪れる人が少ない時期も熱心に開館されて、一生懸命な方だと思っていました。としょかんは若い世代の方もお話できる場所です。



山下 美代子 さん

としょかんへ通っていたお友達に誘われ、お孫さんと一緒にオトナカイギに参加。

初めはどういう目的で始まったのか不思議でしたが、今は世代を超えた交流が生まれる場所になっていると感じます。

住人さんの声



森 喜久子 さん

オトナカイギではお友達に声をかけて参加。多世代の交流を大切にされている。

引越先の決め手のひとつがとしょかんでした。縁のない地域に転入してきた私たちにとって、暖かいコミュニティがすぐ近くにある環境はとっても安心します。

住人さんの声



掛橋 駿 さん
乃利子 さん

第2期ニコイチ住人。オトナカイギなどにゆるく参加。乃利子さんは「としょだより」デザインのボランティアも。

地域でコミュニティ支援をする5つのポイント



第1期としよ係
東 善仁 さん

いろいろな人がいたほうがいい!

子どもだけ、大人だけ、年配者だけ、と分けてしまうのではなく、いろいろな世代の人が、なるべくごちゃまぜになれるようにすると、コミュニティに多様性が生まれます。居て良いという安心を一番に。



第1期としよ係
東 恭子 さん

1人の住人として!

つつい、役職や肩書きなどを意識してしまいがちですが、みんなの居場所では誰もが住人として対等。声の大きい人や大人の意見だけに耳を傾けることなく、小さな声も大切に。



大阪府住宅供給公社
田中 陽三 さん

してあげっこ、されてあげっこ!

地域コミュニティではお互いに「助け合いのしてあげあい」なんです。なおかつ、大人と子どもの関係であっても一方的なサービス提供ではない関係をつくりましょう。運営者は多い方がいい!



第2期としよ係
白石 千帆 さん

困りごととはどんどん相談!

コミュニティの困りごとは、コミュニティ内で解決しようとしがちです。でも、あまり閉じこもらず、風通しよい関係を常に外に開いておく相談先も増えて助かりますよ。

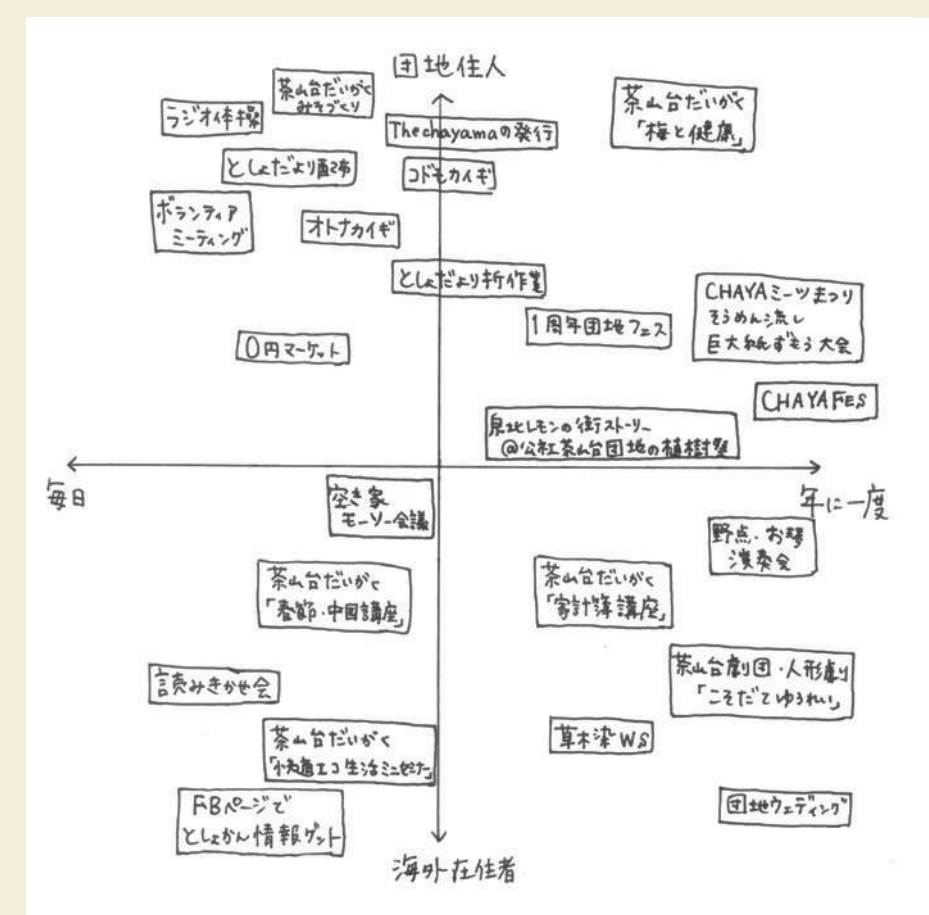


第2期としよ係
湯川 まゆみ さん

がちり、より、ゆる〜!

コミュニティと聞けば、強いつながりや絆をイメージしがちです。ところが、暮らしやすい場所には、実はゆるやかなつながりがあることが多いんです。1日だけ、1時間だけ関わる人がいて当然。参加しない人のことも大切に。

おまけ 茶山台としよかん・できごと図 茶山台としよかんでのできごとを図解してみました。イベントだけでなく、日々のことからも図に示しています。



タテ軸は「団地住人⇔海外在住者」とし団地との距離を示しています。ヨコ軸は「毎日⇔一度」とし、関わり頻度を示しています。また、イベントだけでなく日々のことからも図に示しています。例えば、毎月発行のとしよだよりは、第1期ではとしよ係りが全戸配布をしていましたが、次第に子どもたちが手伝ってくれるようになりました。そして、団地ウエディングでは、遠方の友人も団地を訪れ団地の方と一緒に楽しむことができました。団地住人はもちろん、団地と縁遠い人も団地を訪れることができる、毎日でもときどきでも、一度きりでもいろいろな人たちが交差できる場所をつくってきたいです。



平成29年末時点の
公社茶山台団地の活動内容



大阪府住宅供給公社では、既存のストックを活用し、住民同士のコミュニケーションの促進
豊かな自然環境を活かした魅力ある住環境の整備
など、団地の魅力向上や
地域への貢献を大きな目標にして、
団地再生事業に取り組んでいます。

特に茶山台団地では、

“響きあうダンチ・ライフ”

をコンセプトに

住民同士の様々な交流が生まれ、
それらが互いに響きあうことにより、
豊かな自然に囲まれながら多くの人々が暮らす
「団地ならではの」新しいライフスタイルが
生まれる取り組みにチャレンジしています。



茶山台としょかんのつくりかた

- | | | |
|-------|---|---|
| 発行 | — | 大阪府住宅供給公社 |
| 編集 | — | 特定非営利活動法人SEIN・weather |
| 編集チーム | — | 第1期としよ係 東 善仁・東 恭子
第2期としよ係 白石 千帆・湯川 まゆみ |
| 校正 | — | 高尾 明絵・廣出 純子・山田 聡子・吉田 あや |
| 写真 | — | 馬場 畑 彩 |
| デザイン | — | 掛橋 乃利子 |
| 協力 | — | 茶山台団地住人のみなさま
応援隊のみなさま |

Special Thanks!